

報告事項ウ

不登校生徒等への自宅学習支援事業の実施状況について

不登校生徒等への自宅学習支援事業の実施状況について、別紙のとおり報告します。

令和3年5月14日

鳥取県教育委員会教育長 足 羽 英 樹

## 不登校生徒等への自宅学習支援事業の実施状況について

令和3年5月14日

いじめ・不登校総合対策センター

ICTを活用した「不登校生徒等への自宅学習支援事業」における令和2年度の実施状況における成果と課題を踏まえ、自宅学習支援員の役割の重要性など今後の本事業による不登校生徒等への支援のあり方について検討しましたので、報告します。

### 1 実施状況（令和2年度実績）

- (1) 利用者数 34名（中学生27名、高校生年代7名）
- (2) 利用者の主訴
  - ・休みが続くことから生じる意欲や自信の低下などの心理面の困難さ
  - ・自宅での生活が続くことから生じる生活リズムの乱れなどの行動上の困難さ
- (3) 支援目標
  - ・本人の学習の機会が増える
  - ・本人の目的に向かった自発的・自主的な言動が増える

※実施要項「事業概要」記載の「主体的な学び及び学力向上」、「自己肯定感を高める」に関連した目標
- (4) 支援内容
  - ・eラーニング教材「すらら」による本人への学習支援及び学習管理
  - ・子育てに困り感や悩みを持つ保護者に対する心理的援助及び子育て支援
- (5) 支援方法
  - ・県内3か所に配置した自宅学習支援員が、本人及び保護者を支援
  - ・認知行動療法の視点を取り入れて、「遠隔での自宅学習支援員とのつながり」や「無理をさせない学習機会」の提案を切れ目なく継続
  - ・本人の思いや考え及び活動状況を把握しながら、学習に集中して取り組めるように環境調整

### 2 成果と課題（令和2年度実績）～本人・保護者アンケートより～

#### 1) 成果

- ・子どもの意識の変化  
→利用者の約8割が「自分なりに少しがんばれた」と評価  
→自宅学習支援員との対面が(34名中31名)で実現
- ・学習機会の拡大  
→利用者の約7割が自宅学習の習慣が確立  
→利用者の約7割が学校内相談室等での居場所が確立
- ・保護者のストレス軽減  
→自宅学習支援員との面談(月1回)で悩みや不安を受け止めた  
→子どもの動きを引き出す具体的な言葉かけなどを助言

#### 2) 課題

- ・eラーニング教材「すらら」との相性  
→本人の特性で教材どおりの学習が困難  
→教材の音声や効果音によって意欲低下
- ・ログイン頻度が少ない利用者の働きかけ  
→利用者の約1割は意欲喚起の働きかけが効果なし  
※学習はないが、再登校を意識した言動が生じた

### 3 考察

#### (1) 本人と自宅学習支援員の心と心の関わり合い

自宅学習支援員の役割は、「心理的な援助」と「本人の生活の質を高める活動支援」の2点が挙げられる。不登校の状態にある本人、保護者の不登校に係る悩みや不安に対し安心感を高める心理的援助を行い、本人が「少しだけがんばれた」と感じられる活動を支援計画にそって援助していくことで、本人の自信は回復し活動性が高まることが期待できる。

## (2) 休んでいる生活にある本人の葛藤と小さな努力への働きかけ

本事業で「学校に行けない」という時間の中で、本人は何を感じ、何を考え、何をしようとしているのかに着目し、本人のありのままを受け止めながら「今」の頑張りに気付き、称賛していく支援が重要であることが明らかになった。本人、保護者が置かれている立場や見ている景色を想像したり理解したりする周囲の支援者（担任、教育相談主任など）の力量は、不登校生徒等への支援において不可欠であることが考えられる。

## 4 今後の本事業による不登校等生徒への支援のあり方

### (1) 不登校生徒等の心の回復プロセス ～「あしたも、笑顔で」(2020) 鳥取県教委 p22 から引用～

不登校状態にある子どもは、「混乱期」「安定期」「小さなチャレンジ期」「回復期」を行きつ戻りつの回復過程を歩む。心理面も、不安、焦り、自己否定、抑うつなどの状態が続き、少しずつ心のエネルギーを蓄えて肯定的に物事を捉えたり、何かに挑戦したりするまでに回復する。

### (2) 今後の支援のあり方

- ・ 本人の心理面・体調面に配慮しながら、活動に対する「安心感」を高める
- ・ 本人の心と体の健康状態に合わせて、少しずつ学習機会を提案する
- ・ 本人の喜び、楽しさ、期待、悔しさなどの心のあり様に共感する

### (3) 支援の留意点とその具体例

- ・ 本人の失敗経験や傷つき体験に十分な配慮する
  - 保護者からの聞き取りから本人の歩みを確認
  - 本人のありのままを受け止める関わり方
- ・ 本人の心に寄り添いながら活動を提案する
  - 本人の気持ちを表情や態度から読み取る
  - 気持ちや考えの言語化を提案
  - 小さなステップのチャレンジを提案
  - 「やらない」を選べる選択肢の提示
- ・ 学びの成功や失敗、やり直しができる仕掛けを作る
  - 分かりやすい活動の説明
  - 自分の頑張りを確認できる視覚提示
  - 心が折れそうなときに頼れる関係性づくり